

コロナ、新施設、定員増...2021年を振り返る

2021年も残りわずかとなりました。今年もさまざまなことがありました。各部署の皆さんに1年を振り返ってもらいました。【2面に続く】

“ウィズ・コロナ”の1年

竹屋 元裕学長

コロナ禍の1年でした。1月は第3波の真っ只中。その後も更に大きな第4波、第5波を経験しました。そんな中、7、8月には職域接種を済ませ、PCR検査をフル回転させることで、講義・実習を乗り越えました。今年目標であったPT専攻の学生定員増、新キャンパステラスの整備、国際シンポジウム(6th AHSIS2021)開催のいずれも、教職員一丸となって取り組んだことで実現出来ました。来年も頑張りたいと思います！



10月に開かれた国際シンポジウムの会場

新カリキュラムを編成

羽田野 花美・看護学科長

看護学科の出来事を重大ニュース風にたどってみました。

- 1位) 第5次指定規則改正に伴う新カリキュラムの編成(令和4年度入学生から適用)
- 2位) 令和4年度入学生から看護師・保健師統合カリキュラムを廃止(令和7年度に新たに1年間の保健師養成課程を開設)
- 3位) 新型コロナウイルスワクチンの職域接種に看護学科教員総動員
- 4位) 臨地実習合同研修会を2年ぶりに開催



看護学科教員を総動員して行われた新型コロナワクチンの職域接種。7月、本学アリーナ

PCR検査で安心・安全な教育環境に

南部 雅美・医学検査学科長

新型コロナウイルス感染症のパンデミック宣言から2年目を迎え、教育面においては教員、学生共に遠隔授業にずいぶん馴染んできたように思います。また、分子生物学を担当する山本隆敏講師を中心としてPCR検査を学生・教職員ともにほぼ100%実施し、安心・安全な教育環境の再構築、および学外実習への派遣に貢献できた1年であったと思います。



PCR検査をする山本隆敏講師

PTの定員増認可される

田中 聡・リハビリテーション学科長

最も大きな出来事としては、理学療法学専攻の収容定員が現状の40名から20名の増員が認可され（計60名）、それに伴いアスレチックトレーナーの資格取得が目指せるスポーツリハビリテーションコースが新設される運びとなったことです。本コースの発展に向け、理学療法学専攻を中心に頑張っていきたいと考えています。

水上村での合宿後、九州学院高校で陸上部の生徒たちを前に講義をする松原誠仁准教授



キャンパス拡張工事完了

平緒 泰弘・総務課長

今年は、春に図書館エリアにおいて新キャンパステラスがオープンし、新アリーナ建設に始まったキャンパス拡張工事が完了しました。その後、PT増員に対応する1号館の講義室改修や、保健室と学生相談・修学サポートセンターの面談室増設など学修環境の充実が図られました。今後は、施設の有効活用に取り組んでいきます。



新キャンパステラスのテープカット式

コロナ禍でも有意義な学生生活

山内 佑介・学友会会長

(リハビリテーション学科)

理学療法学専攻3年)



この1年で、COVID-19の影響も少しずつではありますが、落ち着きつつあり、昨年と比較して大学に登校できる機会が増えました。それに伴い講義等を介して友人や教員の方々と関わる機会が増えてきたことは非常にうれしく思います。また、11月ごろからはクラブ活動も一部再開することができているため、学生生活がより有意義になってきているのではないかと感じています。

講義では、昨年後期に引き続きオンラインと対面でのハイブリット型で行われましたが、この形にも慣れてきたうえに、この

形であることで日々の時間を有効に活用できた場面もありました。

自身としては7月、8月に水上村に出向いて高校生陸上選手の支援事業にかかわらせていただき、普段の病院実習では行えないようなスポーツ選手を相手にして動作の分析、考察を行うことは非常に貴重な経験となりました。

COVID-19の影響で日々状況の変化に対応することに苦労する1年ではありましたが、その中で多くの経験を積むことができてとても楽しい1年となりました。

「柴三郎の教え」に学べ 北里英郎・北里大教授が講演

日本が生んだ世界的な細菌学者・北里柴三郎のひ孫で、北里大学医療衛生学部長の北里英郎教授が20日（月）来学し、50周年記念館で医学検査学科2年生に向け「北里柴三郎の教え」と題して講演しました。

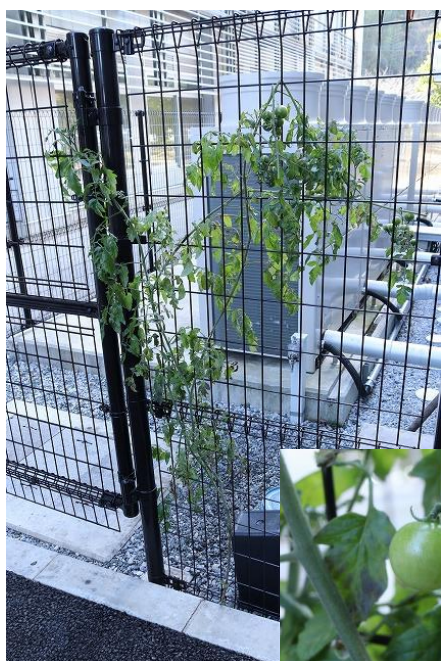
1853年に阿蘇郡小国郷（現阿蘇郡小国町）に生まれた柴三郎は、世界初の破傷風菌の純粋培養やペスト菌の発見などで知られています。また、2024年に刷新される千円札の肖像画にも採用されています。

北里教授は、柴三郎が生粋の「肥後もっこす」であったことや、母の教育方針により良質な教育環境を得るため他家に預けられたといったエピソードを紹介。8歳の頃から毎日素読させられた儒教の基本書「四書五経」が、後の人格形成に役立ったと述べました。柴三郎の学生時代、ドイツ留学時代、3大恩人との出会いなどにも話は及び、北里教授は2008年にノーベル生理学・医学賞を受賞した恩師のハラルド・ツア・ハウゼン博士の「研究者はロマンティストと紳士であること」という言葉で締めくくりました。

この日、北里教授が持参した新千円札のコンテ画がロビーに飾られ、講演を聴いた学生たちが興味深そうに見入っていました。（安部悠介）



写真左は講演する北里英郎教授。同下は講演後、北里柴三郎のコンテ画を見る学生たち



今週の1枚



ド根性ミニトマト

レストラン裏側の通用口の脇に、エアコンの室外機を取り囲むフェンスがあります。そのフェンスを添え木代わりにしてミニトマトが育っています。情報提供者の沖村由紀さん（総務課）によると、気が付いたら写真のように育っていたそうです。

育った場所で力強く

至る所にしっかり実も蓄えています。ただ日の当たらないところに生えているため、トマトの実は緑色のままだそうです。今後も赤くなったミニトマトは食べられそうもありませんが、野生に育つ植物の力強さを感じさせています。

インフォメーション

週間行事予定（12月25日～令和4年1月7日）

12 / 27（月）	仕事納め式
1 / 4（火）	仕事始め式

※12月28日は振替休日。12月29日～1月3日は年末年始休暇になります。